県立中央博物館　令和３年度特別展「バラのすべて～All about Roses～」

会期：令和３年10月９日（土）～11月28日（日）

県立中央博物館

今秋の特別展「バラのすべて」では、バラが描かれた古今東西の絵画、書籍、工芸品等が中央博物館に大集結します。手彩色の銅版画が美しいドイツのバラの貴重書『バラ彩色図譜』（レーシッヒ，1802－1820）やヨーロッパの野ばらが描かれたアール・ヌーヴォーのガラス工芸は必見！植物学、歴史、美術等あらゆる面から、バラの魅力をお楽しみください。

●日本のバラ野生種、ハマナス

日本には野生のバラが16種類ありますが、そのうち最も大きな花を咲かせるのがハマナスです。「知床の岬にはまなすの咲くころ……」という歌もあって北国の花のイメージですが、千葉県でもごくまれに野生のハマナスを見ることができます。

ハマナスはアジア北東部に広く分布し、日本での南限は、太平洋側は千葉県、日本海側は島根県です。暖かい地域でも栽培できますが、発芽にかなりの低温を要するため、温暖な地域で種子が自然に発芽して次世代が育つということはありません。

千葉県も暖かすぎてハマナスは発芽できません。千葉県で見られるハマナスは、例えば海流に乗って北の自生地から植物体が運ばれる等して、海岸に根づいたものと思われます。

●ハマナスという名前

ハマナスは海岸に群落を作ります。初夏から初秋まで香りのよい紅紫色の花を咲かせ、真っ赤なトマトのような実をつけます。その実の姿から、江戸時代には「玫瑰花（まいかいか）」、「浜茄子（はまなす）」等と呼ばれました。特別展で展示する当館所蔵の江戸時代の書籍から、ハマナスの絵を２点、ご覧ください。

●貝原益軒（かいばらえきけん）『大和本草』1709年（宝永６年）

解説文には「四月に花を開く。たいへん良い香りで愛すべき花である。赤い珠のような実がつき、それ故にこの名前がある。茎には刺がある」とあります。「玫瑰」は本来、中国語で赤い宝石のことを意味します。この絵の花は八重咲きですので野生のハマナスではなく、中国で栽培されていた薬用・香料用の品種かもしれません。

●橘保国（たちばなやすくに）『絵本野山草』1755年（宝暦５年）

橘保国は大坂で活躍した狩野派の絵師です。ハマナスが写実的に生き生きと描かれています。図中の解説文には「浜茄子（はまなすび）」の文言があります。

県立関宿城博物館　令和３年度企画展「関宿関所は川関所!?」

会期：令和３年10月１日（金）～11月28日（日）

県立関宿城博物館

千葉県の最北端にある野田市関宿。この町は三つの顔を持つ。一つ目は城下町。二つ目は河岸の町。三つ目が関所の町である。水陸の交通路が交差するこの町は、幕府にとって関所を置き人や物資の流れを管理する格好の場所であった。今年の関宿城博物館の企画展は、この関所を取り上げる。

関所は古来都を守るために置かれたもので、中世には通行税徴収の目的で主要な交通路に設置された。そのため人々の移動が制限され全国統一の障害となっていた。江戸幕府は各地の関所を撤廃し、人と物資の通行を活発にし、江戸を中心とした全国の水陸の交通網を作り上げた。諸大名が国元と江戸を定期的に往復する参勤交代制が定められると、自然と各地の街道と宿駅が賑わうようになった。

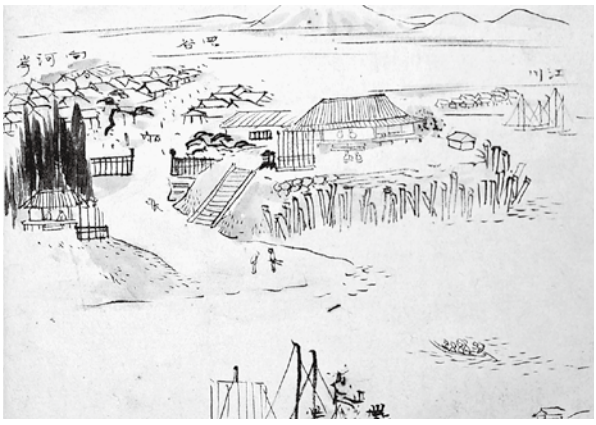
その一方で、幕府に反抗的な勢力を監視し、江戸の治安を守るため幕府によって関所が新設された。「入り鉄砲に出女」と言われるとおり、関所では江戸に入る鉄砲その他の武器類と江戸から出ていく女を取り締まった。特に諸大名の妻子は人質として江戸屋敷に留め置かれ、その逃亡を防ぐため強い監視下に置かれた。

関所は江戸初期から全国の主要な街道や河川の渡船場に設置された。関宿もその一つで幕府はここを重視した。関宿は城下を日光街道の脇街道が通り、利根川と江戸川が分流する交通の要衝である。関宿関所は江戸川右岸の向河岸（現埼玉県幸手市西関宿）に置かれ、寛永８年（1631年）から関宿藩の管理となった。

この場所は日光街道から東に分かれ関宿城城下へと向かう道が江戸川を渡河する地点にあり、江戸川を航行して物資や人を運ぶ船はここを経由せずに江戸に入ることも、また江戸から利根川とその支流へ出ることもできなかった。そのため、関宿関所は陸路を行く旅人だけでなく船荷を検査・監視する役割も担っていた。

関所付近には検査を待つ船が滞留し、江戸川は渋滞した。河岸は検査を待つ間に上陸した多くの水夫たちで賑わいを見せた。

今回の企画展では、関所の置かれた場所や構造、改めの様子などを紹介し、関所の果たしてきた役割についても考える機会としたい。



関宿の関所を描いた「関宿土産」（部分）
県立中央図書館蔵

●詳しくは
http://www2.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO/

県立房総のむら　令和３年度屋外展示「千葉の民俗芸能」

会期：令和３年10月２日（土）～11月23日（火・祝）

県立房総のむら

県立房総のむらでは、令和３年10月２日（土）から11月23日（火・祝）までの会期で、屋外展示「千葉の民俗芸能」を開催する。

民俗芸能とは、地域社会の中で、住民の信仰や風俗・習慣と結び付きながら伝承してきた芸能のことで、神楽や風流など様々な種類のものがある。

千葉県内の民俗芸能を見ると、神楽では、神話に題材を取り神の行状を演じる採物神楽が多く見られるが、湯立神楽も各地に見られる。また獅子頭を被り二人立ちで悪霊を払う獅子神楽も見られ、中には獅子が高い梯子に上りながら曲芸を演じる梯子獅子も見られる。

風流系の芸能も県内各地で見られ、念仏踊、小唄踊、風流獅子舞などが見られる。風流獅子舞では、一人ずつ獅子頭を被り演じる一人立ちの獅子舞で、県内では３匹１組から三匹獅子舞、腹前に羯鼓（かっこ）と呼ばれる太鼓を持ち踊ることから羯鼓舞とも呼ばれる。

このほか、動物に扮した者が高い柱に上って曲芸を披露するつく舞、大漁節や宴席での歌、中央から伝播し定着した能や歌舞伎、祭りの際に山車や屋台につくお囃子なども見られる。

県内では古くから各地域で上記のような様々な民俗芸能が行われてきており、地域の人々の生活と密接に関わっていた。しかし、社会情勢の大きな変化に伴いその数は少なくなってきている。このような状況の中で、千葉県では、県指定無形民俗文化財として56件が指定され、そのうち民俗芸能は45件となっている。内訳は神楽15件、風流15件、歌３件、囃子４件、能狂言５件、つく舞３件である。また、県内の国が指定した重要無形民俗文化財には、他に類例を見ない、因果応報の仏法を劇にした「鬼来迎（きらいごう）」がある。このほか、各市町村においても多くの民俗芸能が指定されているが、県指定・市町村指定ともに神楽・獅子舞が大きな割合を占めている。

以上を踏まえ、今回の屋外展示では、県内の各地域に伝えられ、現在でも行われている民俗芸能の中から、指定文化財に焦点を当て、神楽・獅子舞を中心に、その民俗芸能の状況をパネルや実物資料で展示・紹介し、あわせて期間中にその形態や姿を再現する。

県立房総のむら内での民俗芸能の上演の様子

●問合せ先
県立房総のむら
住所：千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
電話：0476-95-3333
E-mail：mura@chiba-muse.or.jp
URL：http://www2.chiba-muse.or.jp/MURA/

千葉県児童生徒・教職員科学作品展から全国展へ

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当

県総合教育センターでは、毎年「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」を実施し、特に優秀な作品を全国展に出品している。

令和２年度の県作品展は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、科学工夫作品及び科学論文の部（小学校、中学校）、自作教具の部は実施せず、科学論文の部（高等学校）のみの開催となったが、高校生による力作が多数出品された。ここでは、特別賞を受賞した作品を紹介する。

★千葉県知事賞

「低純度試薬からの黄色ゴム状硫黄作成～誰でも簡単に宝石のようなゴム状硫黄を作る方法～」

県立東葛飾高等学校　２年　森高　楓

審査評　偶然の発見から、不純物を含む試薬においても黄色ゴム状硫黄を得る方法を確立した。注意深い観察力と様々な実験を通して論文をまとめあげている。化学を楽しみながら研究する様子が、審査においても伝わってくる。

★千葉県教育長賞

「２段式ペットボトルロケットの開発及び分離メカニズムの力学検証」

渋谷教育学園幕張高等学校　２年

ペットボトルロケット愛好会

審査評　２段式ペットボトルロケットを自作し、水の量や圧力の条件を変化させ、飛行実験を行っている。力学理論について考察し、画像処理プログラムによる計測から、飛行解析を行っている。加速度の変化で分離の条件を定量的に評価できている点が特に優れている。

★千葉市教育長賞

「殻無し卵孵化への挑戦！－$CaCO_3$添加と胚盤カバー効果－」

県立生浜高等学校　チームピヨちゃん

審査評　過去の研究をふまえ、炭酸カルシウムの初期胚奇形発生抑制効果に着目し、割卵時の炭酸カルシウムの添加量と保温７日目の生存率やフォーラップ胚盤面接着保護の効果との関係について、という新規の研究の成果を上げることができた。

★千葉県高等学校教育研究会理科部会長賞

「次亜塩素酸のタンパク質への作用の仕方」

県立市川東高等学校　２年　岡本　雅隆

審査評　データの取り方等、実験の基本事項がしっかりとしている。次亜塩素酸の分解を考慮する等、正確な結果を得るよう方法の改善や、分光光度計よる変性の評価方法が適切かどうかについて検討することにより、より内容の充実が期待できる。

また、次の２点は、全国展「第64回日本学生科学賞」においても高い評価を得た。

◆科学技術政策担当大臣賞

「簡便な黄色ゴム状硫黄作成手法」

県立東葛飾高等学校　２年　森高　楓

◆入選３等

「殻無し卵孵化への挑戦！」

県立生浜高等学校　チームピヨちゃん

詳しくは県総合教育センターWebサイト「優秀作品選集」を御覧いただきたい。

令和３年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展一般公開は、10月16日（土）17日（日）、県総合教育センターで行う予定である。

※審査評は「優秀作品選集」より抜粋。